



2. 佐世保の水源

左のページで説明したように、水源施設にもピーク時の水道需要と非常時の安全確保に対応できる「器の量」が必要です。

しかし、佐世保市には小規模なダムしかなく、このような「器の量」が少ないため、これまでに何度も給水制限を伴う渇水に陥ってきました。

そのため、佐世保市のダムの貯水率は、多くの市民の方の関心を集めており、水道局でも庁舎の電光掲示板やホームページ等で毎日、更新しています。

みんなも見てね。

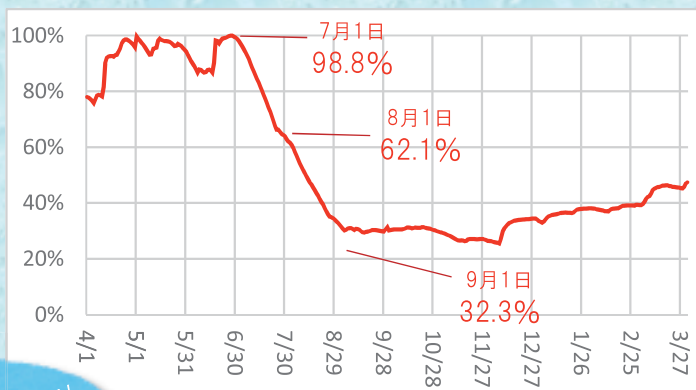


《水道局庁舎の電光掲示板》

この貯水率を見た市民の方から、「今は貯水率が95%だから渇水の心配はないですね？」などの声を聞くことがありますが、佐世保市のダムは器が小さいため、雨が降らない日が続くと急激に貯水率が下がり、たちまち渇水の危機に瀕することになります。

給水制限が9ヶ月もの長期に及んだ平成6年のときには、7月1日では貯水率98.8%あったのが9月1日には32.3%とわずか2ヶ月で65%以上も減少しています。

貯水率は、あくまで『器に入っている水の割合』を示しているだけです。水源に余裕があるか否かは、『水源の器の量』で考えなければなりません。



《平成6年度の佐世保地区のダム貯水率》

例えば・・・



同じ100%でも、バケツとコップとでは、中に入っている水の量は違うよね。

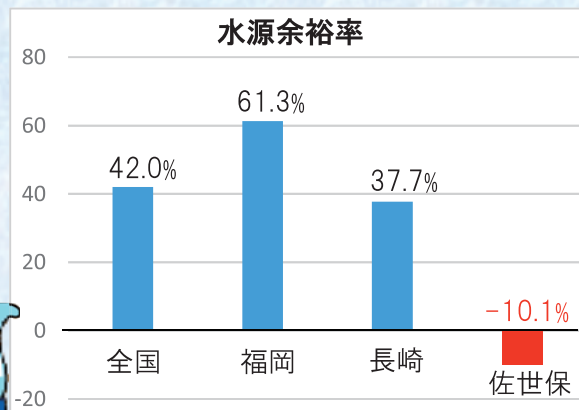


3. 全国との比較

佐世保の水源量を他都市と比較するとき、需要のピークに対して保有している水源量（ダム、河川等）にどれくらいの余裕があるかを表す指標に『水源余裕率』というものがあります。水源余裕率が高いほど、渇水などの非常時に強く、数値が低いほど渇水に対して脆弱とされています。

全国の水源余裕率の平均値は42.0%であるのに対し、佐世保は-10.1%となっており、全国で最も低い水準となっています。（いずれも平成26年度実績）

佐世保市では、まずは、水道を安定的に供給できるぎりぎりの水準である『水源余裕率0%』にすることを目標に、石木ダムの建設を進めています。



※他都市の数値は日本水道協会の「水道統計」より。
「佐世保」は佐世保地区の数値

石木ダムは、左記の考えに基づき計画されたダムで、ダムの大きさ等の計画内容が適切であることは、国のダム検証や再評価、事業認定などの色んな手続きの中で認められてきたんだよ

